

<p>6. 事業内容</p>	<p>(1)不発弾処理技術移譲  UXO Laoに対しJMAS 専門家が学科及び実技(OJT)により不発弾処理技術移譲を実施する。訓練センター教官、上級不発弾処理技能者(SEOD)及びチームリーダー(TL)に対しては、「爆弾のこぎりカット法」を主とした不発弾処理技術移譲を実施する。また、一般隊員に対しては不発弾処理に関する基礎科目の教育を実施する。</p> <p>(ア)学科教育  事業開始から1カ月で教育準備を行ったのち、TL47名に対し計画的に集合教育を実施する。一般隊員に対しては課程教育から集合教育に変更し不発弾処理に関する基礎科目の教育を実施する。更に、1年目に把握した訓練センターの教育状況を踏まえ、テキストの整備及びパソコン教育を実施する。また、1年目に集合教育に参加できなかったSEODに対して集合教育を実施する。</p> <p>(イ)OJT  UXO Lao 各県支部の不発弾処理現場を教育の場として、UXO Lao 各県毎SEOD、TLを含む不発弾処理チームを主対象として実施し、信管付の爆弾をのこぎりカット法により処理する。各県8支部120名、訓練センター教官2名を対象として実施する。実施に際しては、JMAS 専門家2人による相互連携のもと安全管理に万全を期して実施する。</p> <p>(2)訓練センター建替え  訓練センターの建替え地は現訓練センターと同じ敷地になり、建替え時も教育が行われているため、現在の訓練センター機能を維持しながら建替えを実施する必要がある。その為、新しい建物が完成した後に現建物の解体を行いながら作業を行う。2年次は学生宿舎、食堂及び付帯設備を建設する。施工監理については、JMAS(建築) 専門家を派遣し建築会社との契約に定められた工期、建設施設の完成度及び品質規格の確認を行う。また、右専門家不在間は、現地総務企画主任が専門家補佐として施工監理に従事する。</p>
<p>8. 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(1)不発弾処理技術移譲</p> <p>(ア)成果  学科:TL47名がのこぎりカット法の教育を、一般隊員が基礎科目の教育を初めて受けそれぞれの到達目標を達成する。  OJT:UXO Lao 各県支部8県120名がJMAS 専門家の教育を受けのこぎりカット法の技術基盤を各人の到達目標に応じて構築する。訓練センター教官2名がSEOD及びTLに教育できるレベルになる。</p> <p>(イ)成果を測る指標  学科:①TL集合教育47名に学科及び実習到達目標に基づき筆記及び実技試験等により評価を実施するほか受講所見及びアンケートにより教育効果を確認する。一般隊員に対してUXO Lao 基準及びJMAS 到達目標に基づき筆記及び実技試験等により評価を実施するほか受講所見及びアンケートにより教育効果を確認する。  OJT:訓練センター教官2名及び各県支部隊員120名のSEOD、TL、一般隊員そ</p>

	<p>それぞれの到達目標に基づき評価を実施する。</p> <p>(2)訓練センター建替え</p> <p>(ア)成果</p> <p>学生宿舎、食堂及び付帯設備が完成し、宿舎面積は 210.6 m<sup>2</sup>から 500 m<sup>2</sup>に拡張され、収容人数は 62 人から 72 人に増加する。</p> <p>(イ)成果を測る指標</p> <p>収容人数が 62 人から 72 人へ 17%増加、一人当たりの面積は 3.4 m<sup>2</sup>から 6.9 m<sup>2</sup>へ 100%増加する。訓練センター及び被教育者に対し教育環境の改善効果についてアンケート及び聞き取り調査により確認する。</p>
--	---